

# 蟹江北中学校 令和4年度学校評価のまとめ

## (1) はじめに

- 保護者と生徒の回答は、全ての項目で肯定的な評価の割合が否定的な評価よりも高くなっておりよい傾向であった。教師の回答もほとんどの項目で肯定的な評価の割合が高かった。

特に、「学校生活を楽しく送ることができているか」「校則（服装を含む）を守っているか」の質問において、保護者・生徒・教師ともに90%以上が肯定的な評価をしている。今後も、生徒の生活の様子に目を配り、生徒が安心して落ち着きのある学校生活を送れるよう心がけていきたい。

## (2) 成果

- 1 「学校生活を楽しく送ることができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、今年度は、修学旅行や学校祭などの行事を実施することができ、生徒にとって充実した学校生活が戻ってきたからと考えられる。また、昨年度、一昨年度と学校生活の中にも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな制限があった。しかし、今年度はコロナ禍以前のように学校祭や授業参観など保護者に参観していただく機会を多く設け、学校での生徒の様子を見ていただくことできたからと考えられる。
- 3 「校則（服装を含む）を守っているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに90%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、継続的に新しい生活様式を守って生活しようとしていることで、校則も守ろうという気持ちを保っているためではないかと考えられる。
- 6 「いじめや差別をされていないか」については、「されていない」と回答した割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。なお、「されている」という生徒について、学級担任を中心とした丁寧な聞き取りとその内容を基に事実確認をし、支援・指導を行っている。あわせて、解決済みの事案も含め、人間関係等を注意深く見守りながら対応している。
- 7 「いじめや差別をしていないか」については、「していない」と回答した割合が保護者・生徒・教師ともに90%と高い。なお、「している」という生徒について、6「いじめや差別をされていないか」と同様の対応をしている。
- 11 「学習内容について分からなければ仲間と聴き合うことができているか」については、生徒と教師ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、保護者は肯定的な評価の割合が約70%となり、生徒と教師の捉えと保護者の捉えに差が見られた。授業中に近隣座席の生徒同士で聴き合っている様子がうかがえる。生徒は分からないとき学習内容を理解するため、友達に聴くことに抵抗がないようである。
- 12 「授業で、仲間の話をじっくりと聴いて、学び合おうとしているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに80%と高い。学習指導要領を踏まえて生徒同士の学び合いを取り入れた授業スタイルを推進してきた成果と考えられる。今後も、生徒一人一人が主体的に学び、互いに高め合っていくためにも、工夫した授業づくりを進めていけるように、教師の力量向上に努めていきたい。
- 14 「道徳の授業を通して、よりよく生きようという気持ちをもつことができていたか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに約80%であった。2019年度に道徳が教科化され、教師の力量が向上したことと、生徒が「考え、議論する道徳」の授業に慣れ、実践しようとする気持ちをもちやすくなったことが理由として考えられる。

### (3) 課題

- 2 「学校生活で時間を守って行動することができるか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約65%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。今後は、集団生活の中で時間を守って行動することの大切さを生徒に伝えるとともに、教師自身がよい見本となれるよう行動していきたい。
- 4 「時と場に応じた言葉遣いができるか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約70%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。教師が時と場に応じた言葉遣いを教えていくことを意識するとともに、教師自身も言葉遣いに気を付け、丁寧な指導をしていきたい。
- 5 「挨拶や素直な返事ができているか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が約90%と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約50%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。挨拶や返事は学校生活だけでなく、卒業後も必要になると考えられるため、今後も継続して指導をしていきたい。
- 8 「プラス言葉（ありがとう、うれしい、いいね等）やプラス態度（協力する、相手を認める、声をかける等）を意識して行動できているか」について、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が80%と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約60%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。生徒の言葉や態度を教師が四六時中把握できているわけではないため、捉えに差が出たと考えられる。今後も生徒が人間関係を円滑にするための発言や行動を意識する取組を継続的に行っていきたい。
- 9 「交通ルールやマナーを守って登下校できているか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が約10%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。現状の登下校について、「自転車の並進」「広がっての歩行」等の情報を地域からいただくこともあり、教師が直接指導する機会もある。軽微で済んでいるが、自転車通学者と車の接触事故も起こっている。生徒全員が安全に登下校するために、教師と保護者が協力して生徒の交通ルール遵守とマナー向上の意識を高めていくことが急務である。
- 10 「学習内容が理解できているか」については、生徒と教師ともに肯定的な評価の割合が80%以上と高い。しかし、保護者は肯定的な評価の割合が約70%となり、生徒と教師の捉えと保護者の捉えに差が見られた。保護者は、生徒の家庭学習の取組の様子などから学習内容の定着が不足していると感じているのではないかと考えられる。今後は、基礎学力の確実な定着につながるよう生徒一人一人の理解度に合わせた指導や支援などを工夫していかなければならないと考える。
- 13 「進路選択等に意欲的に取り組み、自分の将来について前向きに考えたか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに65%であった。生徒の自己評価を各学年別に見ると、1年生での肯定的な評価の割合は約60%となっているが、学年が上がるにつれて肯定的な評価の割合が高くなっている。今後は各学年で進路指導を中心に将来の職業選択も視野に入れながら、生徒一人一人の希望や夢を大切にされたキャリア教育を推進し、生徒が自分の将来を考える力を高めていく支援をしていきたい。
- 15 「生徒の努力を認めていると思うか」については、保護者と教師ともに肯定的な評価の割合が80%以上と高い。しかし、生徒は肯定的な評価の割合が約75%となった。集団の中で努力を認められていないと感じている生徒もいるため、生徒一人一人の思いに寄り添ったり、温かい言葉をかけたりして、生徒の努力を認めていくことで自己肯定感を高めていきたい。